

連続テレビ小説「おひさま」の経済効果の試算

4月4日（月）から、長野県安曇野と松本を舞台としたNHKの連続テレビ小説「おひさま」が放映される。これによる長野県での経済効果を、過去にNHKの連続テレビ小説の舞台となった都道府県の平均的な観光客数増加率<sup>(注)</sup>をもとに試算したところ、2011年の観光客数の押し上げ効果200万人、観光消費増加額73億円、県内産業の生産誘発効果68億円との結果を得た（具体的な計算方法は別紙参照）。

(注) 過去10年間（2000年から2009年まで）に連続テレビ小説の舞台となった都道府県の観光客数増加率（放送終了年の実績値）のうち、連続テレビ小説放映以外の要素による影響を大きく受けたとみられるデータを除いた平均値（増加率2.23%）を使用。平均値の算出から除いたデータは、①観光客数増加率がマイナスとなっているデータと、②観光客数増加率のプラス幅上位2個、下位2個のデータ。

▽ 過去の平均的な観光客数増加率をもとに試算した経済効果

観光消費 増加額	県内産業の 生産誘発効果			
	直接効果	1次波及効果	2次波及効果	
73億円<2.2%>	41億円	14億円	12億円	

<>内は2009年における長野県の観光消費額に対する割合。

- 直接効果 : 観光消費額の増加によって直接的に県内産業にもたらされる生産誘発額。
- 間接効果
  - 1次波及効果 : 直接効果で必要とされる財・サービスが生産されるときに必要となる原材料等の購入によって県内産業にもたらされる生産誘発額。
  - 2次波及効果 : 直接効果や1次波及効果によって生じた雇用者所得の増加が消費に向けられることによって県内産業にもたらされる生産誘発額。

ただし、実際の観光客数は、天候、観光地でのイベント開催、誘客のための宣伝活動など、連続テレビ小説放映以外の要因によっても大きく影響を受ける。特に現在は、震災、計画停電などによって広範囲でレジャー支出が抑制されており、この影響がどの程度の期間・規模のものとなるかは、現状では予測しがたい。上記の経済効果は、連続テレビ小説放映によるプラスの効果だけを、一定の前提のもとで試算したものであり、実際の観光客数増加率は、相当の幅をもってみておく必要がある。

なお、仮に観光客数増加率が上記の前提よりも1%上振れまたは下振れした場合の経済効果は、次のとおりとなる。

▽ 観光客数増加率が変動した場合の経済効果

観光客数 増加率	観光消費 増加額	県内産業の 生産誘発効果			
		直接効果	1次波及効果	2次波及効果	
1. 23% (▲1%)	40 億円 <1.2%>	37 億円	23 億円	7 億円	6 億円
2. 23% (——)	73 億円 <2.2%>	68 億円	41 億円	14 億円	12 億円
3. 23% (+1%)	106 億円 <3.2%>	98 億円	60 億円	20 億円	17 億円

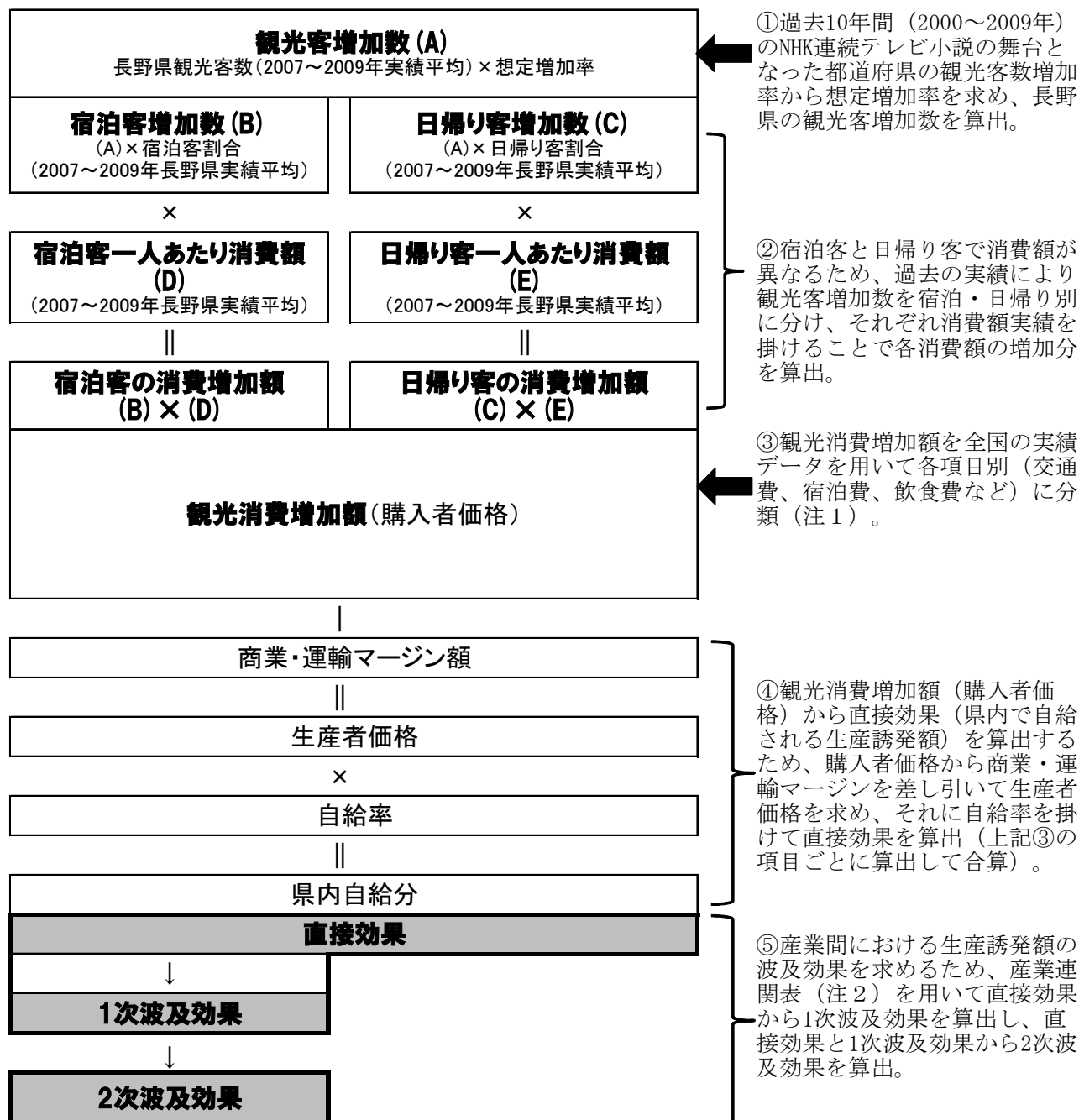
< >内は 2009 年における長野県の観光消費額に対する割合。

震災以後、長野県の観光業は、他の多くの地域と同様に、厳しい状況に置かれている。しかし、壮大な自然と、観光立県の伝統の中で培われたホスピタリティは、長野県を訪れる人に癒しと元気を与える。日本が復興に向けて踏み出さなければならない現在、多くの人々がそうした力を必要としている。

今回の連続テレビ小説のタイトル「おひさま」には、ヒロイン・陽子が太陽のようにあたたかく、明るく人々を包み込む存在となるようにとの願いが込められている（NHK「おひさま」HP「企画意図」より）。長野県の観光業に携わるすべての人がタイトルに込められた願いに応え、今回の連続テレビ小説放映を中長期的な観光振興の起点とすることを期待したい。

以 上

経済効果の具体的な計算方法



(注1) 観光消費額の内訳については、国土交通省観光庁が公表している2008年度の「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究IX」から①交通費、②宿泊費、③宿泊費 (別荘等帰属計算)、④飲食費、⑤土産代・買物代、⑥入場料・施設利用料、⑦旅行会社収入、⑧その他の消費額に占める割合を求めて算出。

(注2) 平成17年 (2005年) 長野県産業連関表 (108部門) を使用。